

園長通信

イメージキャラクター

ふたふう

高槻双葉幼稚園50周年を記念して誕生しました。幼稚園で子どもたちを見守っています！



2024.12.01

園長 岡部 祐輝

幼児教育や幼一小架け橋期の教育・保育が充実するとは・・・？

先月の通信で幼稚園生活の子どもの学び方について記述をしましたが、10/30に文部科学省より「幼児教育施設及び小学校における架け橋期の教育の充実について」という通知が発出されました。その中で、以下のように幼児教育について記述がなされていますので少し紹介をさせていただきます。

第1章 社会と共有したい幼児教育の基本的な考え方 3. 幼児教育の基本

> 幼児教育では、幼稚園教諭・保育士・保育教諭等がその専門性を発揮して、**幼児が思わず関わりたくなるような魅力的な環境を意図的・計画的に構成し、幼児が主体性を十分に発揮しながらその環境に関わる遊びや生活を展開することにより**幼児の発達を促すという「**環境を通して行う教育**」が基本。

> 幼児は、教育的な意図をもって計画的に構成された環境の下、好奇心や探究心をもって遊びを展開する中で、様々な能力や態度を身に付けていく。幼児期においては、**遊びを通しての指導を中心に行うことが重要。**

第2章 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく教育活動の成果と課題等

1. 幼児教育の基本に関する事項 (2) 自発的な活動としての遊び

> 幼児の遊びには、幼児の成長や発達にとって重要な体験が多く含まれており、**自発的な活動としての遊びは、幼児期特有の学習。**

> 幼児期は、**知識・技能を教え込むことではなく、幼児が幼稚園教諭・保育士・保育教諭等との信頼関係に支えられ、遊びを通して楽しいと感じる多様な体験をしながら、小学校以降の生活や学習の基盤となる資質・能力を育てていくようにすることが重要。**

> 一方、一部の幼児教育施設においては、SNS等からの偏った情報やそれらに影響を受けた一部の保護者のニーズ等を優先し、ややもすると、**文字や数量の機械的暗記や一方的指導など幼児の発達にふさわしくない教育活動が行われている**との指摘。また、保護者をはじめ社会においては、**幼児教育施設はただ遊ばせているだけとの誤解**もある。

~~~~~

本文書の発出背景としては、「幼保小の子どもの学び・育ちが円滑につながっていくこと」をめざした接続・連携の重要性があると考えています。これまでたびたび文部科学省などから、同様の文書が発出されていますが、幼児教育の内容・学び・展開などのイメージはまだ地域・社会などから十分でないといえます。

かつて、1964（昭和39年）改訂の幼稚園教育要領（当時文部省）の記述の一部には、以下の記述がありました。

>遊具，絵本，視聴覚教材などの教具については，これを適切に選択して利用するようにすること。

>遊びの指導にあたっては，いろいろな形態や様式の遊びを**経験させ**～・・・

>幼稚園や地域の実態を考慮し，幼児の心身の発達の程度に応じ，**具体的な指導のねらいを明確に設定**し，これを達成するにふさ

わしい幼児の**経験や活動を選択して配列**すること。

~~~~~

このように、かつては「させる」、「明確に～する」、「計画的に配列する」などの、知識や技能を習得するために、大人が計画したことを提供していくということが強くありました。しかし、その時代から、早60年経過しました。現在では、耳にされた方も多いかと思いますが、「子どもの主体性」などを重要視するなど、前述の「幼児教育の基本」に書かれたようなことが重視されています。

前述の通り、「一部の幼児教育施設においては、SNS等からの偏った情報やそれらに影響を受けた一部の保護者のニーズ等を優先し、ややもすると、文字や数量の機械的暗記や一方的指導など幼児の発達にふさわしくない教育活動が行われているとの指摘」がなされています。この指摘からもわかるように、

>大人（保育者）が子どもの姿をふまえずに設定した、「子どもにさせたいこと」、「させなくてはならないこと」を一行的に行う

ことが幼児教育ではない。

>小学校のスタートラインまでに・・・を急ぐあまり、「算数につながる～の教材をする」、「音楽の～の技術を今から高めよう

と何度も反復練習をする」など、小学校の先取りに多くの時間を使う取り組みが幼児教育ではない。

と考えます。

私自身も当園赴任までは、公立小学校の教員として、クラス担任をしていました。その中で1年生のクラス担任をしていた年度もあります。小学校では、子どもに到達してもらいたいと考える目標やねらいを設定し、授業計画を立てます。例えば、絵の具/鍵盤ハーモニカ/ひらがな/カタカナの練習など、小学校学習指導要領の記載内容に基づき、授業計画を立てる中で、「どのように知識や技術を習得できるように援助できるか」を考え、教材を準備したり、授業展開を工夫したりすることを、1年生の授業の中でも行っていました。

「小学校入学前に幼児教育で取り組んでおかないといけないのではないかと」思う方も一定数おられるかもしれませんが、実は「このようなことをして、技術を定着させましょう」という具体的なことは、幼稚園教育要領などには書かれていません。

一方、小学校学習指導要領には、子どもたちにつけた力、知識、技能などが記載されていることが多くあります。ゆえに、小学校では、「もう幼稚園や保育園で知っているでしょ？内容を飛ばしてやるね」ではなく、丁寧に内容を扱う必要があり、その授業内容に子どもの姿やそれまでの経験に応じて授業内容を工夫することが小学校教員には求められていると当時から理解をしていました。

また近年では、「学習の個性化」、「指導の個別化」などからなる、「個別最適な学び」の重要性が小学校以降でも取り上げられています。「子ども一人一人が同じ学びをしてきたわけではない」という前提でこれからの小学校の授業も変わっていくことを国が示

しているとも言えます。

「幼稚園、保育園で小学校で困らないように基礎を先取りをする」ということは、前述の資料から考えても、「幼児教育の充実」とイコールではないことが伺えます。私たち幼児教育施設と小学校がこれからも対話を重ね、子どもの学び・育ちが主体的なものとなるよう努めたいと思います。

クラス発表会で見ていただきたい視点

本通信、前半部で記述してきた通り、行事などについても、「～をさせる」ということから、子どもたちのやってみたい、形にしたいという願いや思いなどが高まる展開の中で進めていくことを重視しています。学年によっては時には、飾りつけを作ったり、自分たちで大道具を補修したり、セリフを言うときのポーズをチームで相談したり・・・時には意見の食い違いなどから思っていた以上に対話する時間がかかることもあります。

もし、完成度や出来栄を重視するあまり、保育者がずっと前に立ち、1からすべて指示し、指示通り動くことを目的とした、方法で行くと、効率よく時間通り練習を終えられるかもしれませんが、見栄えなどは良くなるかもしれません。しかし、そのようなプロセスを経て、行った行事では、特に子どもどうしの関係性の育ちや、何より、「自分でやった」という感覚を持ちにくくなり、**「ただ言われたことを正確にこなした」**ということだけになってしまうことが危惧されます。

一見回り道に見えることも、子どもたちが試行錯誤して作り出した世界にこそ、意味や価値があると私たちは考えています。ぜひ当日までのプロセス及び、発表会当日には以下の視点でもご覧いただき、見守っていただけますと幸いです。

- ・ **子どもならではの工夫や考えがどこに見られたか**
- ・ **発表会に向けて日常の遊びや生活とつながっていることはどのようなことだったか**
- ・ **予定外のことや、困難や葛藤（思い通りにいかないこと）があったときにどのように向き合っていたか**
- ・ **友達どうしでどのようなやりとりをしようとしていたか**

子どもたちの思いや考えを保育者もともに形にしていけるよう精一杯サポートしていきます。どうぞよろしくお願いいたします。

